

## Event Reports

5G

AI

IoT

# DOCOMO Open House 2018 —ビジネスを，世界を，5Gで革新する。—

R&D戦略部 <sup>あくざわ</sup>阿久澤 <sup>まり</sup>まり <sup>たまおき</sup>玉置 <sup>まさひろ</sup>真大

5Gイノベーション推進室 先進技術研究所 イノベーション統括部 サービスイノベーション部  
IoTビジネス部 移動機開発部 法人ビジネス戦略部

ドコモは2018年12月6，7日の2日間にわたり，東京ビッグサイト<sup>®\*1</sup>にて「DOCOMO Open House 2018 ～ビジネスを，世界を，5Gで革新する。～」を開催した。本稿では，本イベントの開催模様の紹介，ならびに主だった展示の詳細について解説する。

## 1. まえがき

「DOCOMO Open House 2018 ～ビジネスを，世界を，5Gで革新する。～」(以下，本イベント)が，2018年12月6，7日の2日間にわたり，東京ビッグサイトにて開催された。

ドコモは，2020年のさらにその先を見据え，パートナーの皆様とのさまざまな「新しい価値」の協創により，お客さまの期待を超えるサービスを展開し，多くの「驚き」と「感動」を提供したいと考えている。これをふまえ，従来のDOCOMO R&D Open Houseは文字通りドコモR&Dの先進性・技術力を世の中に広く伝える位置づけであったが，今回のDOCOMO Open HouseではR&Dの技術的成果に限

定せず，法人部門によるビジネスソリューションやNW部門の取組みの紹介などを含めた，全社一丸となって行った。会場では，協創を進めているパートナーの皆様と，5G，AIやIoTなどの最新技術と，それらを活用したビジネスソリューションについて紹介し，また多彩な講演やプログラムも実施し，来場者数は約14,000人と，盛況のうちに終えることができた(写真1)。

本稿では，本イベントにおける主だった展示・講演の詳細について解説する。

## 2. イベント概要

本イベントでは，NTTからの9件の出展を含めて



写真1 DOCOMO Open House 2018の様相

239件の展示を行い、それぞれ「デバイス・UI/UX」「AI」「IoT」「スマートシティ」「イノベーションチャレンジ」「New Exciting」「ヘルスケア」「スタートアップ」「デジタルマーケティング」「災害対策」「ネットワーク」「5G Solution」「5G Experience」「CSR」「2020」の15カテゴリに分類し公開した。各展示では、実際に動作可能な実機による体験やデモを通して、来場者にドコモの描く世界観を伝えることができた。

講演においても、初日の基調講演にて、吉澤 和弘代表取締役社長が「5Gでより豊かな未来を」と題して、5G時代に向けたドコモがめざす未来や中期戦略について紹介し（写真2）、2日目には阿佐美 弘恭代表取締役副社長が「ドコモが描くデジタルトランスフォーメーション」と題して、ドコモのマーケティング環境の変化とそれに向けた変革について紹介した（写真3）。その他、ドコモ幹部だけではなく、Sunwoo Lee氏（Korean Telecom）、Philippe Lucas氏（Orange）、藤岡 雅宣氏（エリクソン・ジャパン）、深堀 昂氏（ANA）、梶谷 ケビン氏（ANA）、金山 淳吾氏（一般財団法人渋谷区観光協会）、須藤 憲郎氏（一般社団法人渋谷未来デザイン）など



写真2 吉澤社長による基調講演



写真3 阿佐美副社長による基調講演

による、多数の社外パートナーによる多彩なテーマに沿った講演も行われた。

### 3. 5G Experience

5G Experienceのエリアでは、2020年商用化を見据えた新たな5Gサービスの実現に向け、幅広い業界のパートナーとの協創によるトライアル事例・デモを展示した（写真4）。特に、産業ロボットや建設機器の遠隔操作、遠隔医療、高臨場遠隔合奏から、コネクテッドカーなどの次世代モビリティへの取組み紹介まで、5Gの特徴を最大限に活かした近未来のサービスを、実際に5G通信を介した体感型デモで披露した。また、さらにその先の5G Evolution and 6Gに向けた研究開発の取組み状況や成果を発表した。

#### 3.1 ヒューマノイドロボットの遠隔操縦

トヨタ自動車（株）と共同で5Gによるヒューマノイドロボット（T-HR3<sup>®</sup>\*2）の遠隔操縦を実演した。遠隔地（東京ソラマチ<sup>®</sup>\*3）にいる操縦者と会

場のT-HR3を、一部区間に5Gを活用して接続した。5Gを用いることにより、T-HR3の動作制御と操縦者への力（トルク）のフィードバックを低遅延でやり取りし、あたかもT-HR3が操縦者の分身であるような感覚で自在かつ安全に操縦できることを披露した。T-HR3が「ブロックを積み上げる、片付ける」「目隠しをして触感だけでコマを迷路のゴールに導く」「人と握手をする」などの細やかな動作を実演し、有線接続時と遜色ないレベルで制御できる様子を実演し、来場者からは多くの反響を得た。利用シーンとしては、家事・介護などの日常作業から建設・医療現場の作業支援まで、幅広い領域への適用が期待される。

#### 3.2 遠隔高度医療「モバイルSCOT」

5G通信を活かした「モバイルSCOT<sup>®</sup>（Smart Cyber Operating Theater）\*4」を東京女子医科大学と共同で展示した。5G通信を介して、手術の映像と医療情報を遠隔地の「モバイル戦略デスク」にいる医師と共有し、合意形成しながら高度な手術を行う様子をデモで示した。5Gの高速・低遅延通信

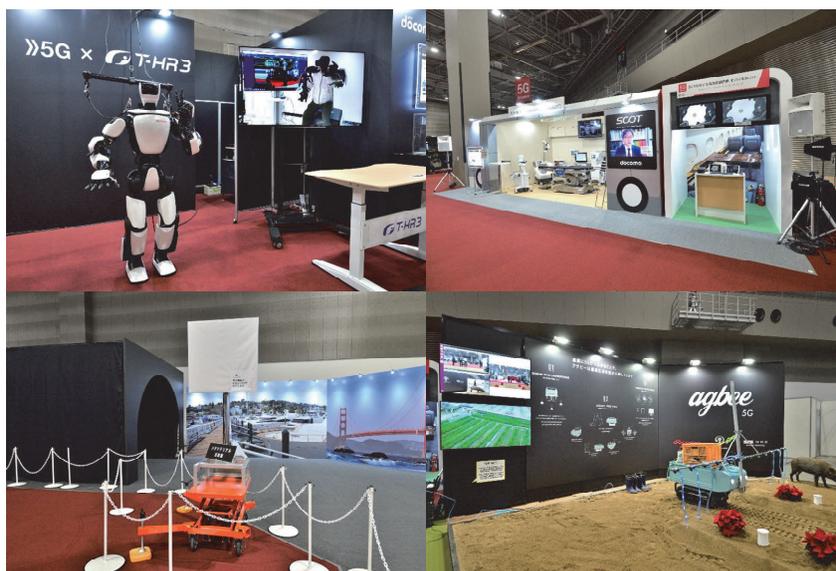


写真4 5G Experienceブース

\*2 T-HR3<sup>®</sup>：トヨタ自動車(株)の登録商標。  
\*3 東京ソラマチ<sup>®</sup>：東武鉄道(株)の登録商標。

\*4 SCOT<sup>®</sup>：遠隔スマート治療支援システム。（学）東京女子医科大学の登録商標。

により、遠隔地からでも高品質な映像でリアルタイムに施術の状況が確認でき、高度医療を“いつでもどこでも”高い水準で享受できることを示した。例えば、経験豊富な専門医師がどこにいても手術をサポートでき、有事の際には病院搬送が困難な場所でも最良の診断・高度な治療を可能とするなど、医師が不足する過疎地や災害現場などでも高水準な医療環境が提供できる。

### 3.3 メタマテリアル技術を適用した反射板

高周波数帯の電波を利用する5Gのエリア整備に向けて、Metawave社が開発したメタマテリアル<sup>\*5</sup>技術を適用した反射板を、実際に会場に設置して5Gデモを行うとともに、メタマテリアル反射板を組み込んだ5G伝送のフィールド実証に世界で初めて成功した様子を紹介した。本反射板は、設置場所に応じた設計をすることで、特定の方向に反射波を誘導することができ、建物の影や基地局からの見通しの悪い場所でも高品質な5Gエリアの拡大が可能となる。会場でも、2018年11月の5Gトライアルサイトでの反射板を用いたフィールド実験の検証成果を紹介するとともに、実際にメタマテリアル反射板を設置して会場内に5Gエリアを形成し、28GHz帯での5G電波到来の様子を電波ビジュアライザで目視できるデモを実施した。それにより、直進性の高い高周波数帯での電波においても、5Gエリアの効率的かつ柔軟なエリア整備・拡大が可能になることを示した。

2020年商用サービス開始に向けた5G通信システム開発の進行とあわせて、5Gが実現する新たなサービスも具体化・ビジネス化といった、次の段階へのシフトが加速している。5G Experienceエリアでは、多業種のパートナーとの協創による5G通信を用いた体感型デモ展示により、あらゆる業界・産業でのユースケースにおける5Gの有用性を見学者に実感いただき、多くの驚きと共感を得ることができた。さらに、ドコモが考える5Gのその先の未来

へと、新たな価値創造を生むイノベーションに向けて、ドコモR&Dの研究開発はさらなる進展を遂げていることを示した。

## 4. AI

ドコモでは「究極のパーソナルエージェントの実現」および「社会課題の解決や産業の効率化」をめざし、AI技術の開発とソリューション化を進めている。

AIのエリアでは、ドコモのAIエージェントであるmy daiz（マイデイズ）を支える技術、自然対話プラットフォーム、画像認識、など、最新のAI技術と具体的なアプリケーションを展示し、お客様に体感いただいた。

### 4.1 AIエージェント×AI Geeks

AIエージェント×AI GeeksのブースではドコモAIエージェントAPI（Application Program Interface）<sup>\*6</sup>を先行活用しているパートナー企業21社の協力の下、AIエージェントを活用した27個のソリューションを1つのエリアにまとめショッピングモールのような形で紹介した（写真5）。来場者に、たいへん多くのソリューションと活用事例を見てもらい、自社での活用のイメージが湧いたなどの意見をいただいた。また、協力してもらったパートナー



写真5 AIエージェント×AI Geeks

<sup>\*5</sup> メタマテリアル：電磁波に対して自然界の物質にはない振舞いをする人工物質のこと。

<sup>\*6</sup> API：機能やデータを利用するための汎用化されたインタフェース。

様にも問合せが多数来ており、お客様とパートナー様をつなぐとても良い機会となった。

## 4.2 自然対話プラットフォーム

自然対話プラットフォームを活用した対話システムを数多く展示した。“スポーツ観戦がさらに楽しくなるチャットボット\*7”では、リアルタイムに変化する試合状況に応じて話しかけたり、チームや選手に関するうんちく情報を知識データベースを用いて応答したりすることができる。“雑談対話サービス「かたらい™\*8」”は4000万規模の発話シナリオデータベースをもっているため、シナリオ作成が不要で短期間での対話サービスの提供が可能である。また、開発者が手軽に自然対話プラットフォームの開発環境を使うことができる「xAI ML SUNABA™」や、日本語以外の対話サービスを実現する多言語化の取組みも紹介した。中には“自然対話エンジンFAQチャットボット”や“my daiz”など、すでに商用化されているサービスの展示もあり、さまざまな利用シーンにあわせて音声・対話技術の導入を推進するドコモの取組みをアピールした。

## 4.3 画像認識

“5G監視カメラ画像認識”は、ドコモの5Gネット

ワークに直接接続するクラウド基盤上で人物検出やトラッキング、属性推定などの画像認識技術を監視カメラに適用する。したがって監視カメラ映像がインターネットに流れることなく、高度な画像認識技術が適用できるため、セキュリティやプライバシーに配慮した監視カメラソリューションを提供できるようになる。他にも“AI除草ロボット”は、ロボット上で動作する画像認識技術により、高速に作物と雑草を見分け、除草しながら自動で走行する。

本イベントでは画像認識技術単体ではなく、5Gネットワークやエッジデバイスも含めたトータルなソリューションとして、付加価値を高める取組みを来場者に理解していただいた。

ドコモは、AI・ビッグデータを活用したサービス・ソリューションの開発により、さまざまな業界のパートナーとの協創を通じたユーザ体験の拡張と新たな市場の開拓を進めていく。

## 5. IoT

IoTのエリアでは、「働く人も、暮らす人も“新たな価値”でつながる、明日へ」をテーマに、現代社会を取り巻くさまざまな課題解決に向けた、ドコモのIoT技術を紹介した(写真6)。来場者の関心も非



写真6 IoTエリア

\*7 チャットボット：音声やテキストチャットを介して、人との会話を自動的に行うプログラム。

\*8 かたらい™：「かたらい」および「SUNABA」は㈱NTTドコモの商標。

常に高く、積極的な質問を多数いただき、ドコモのIoTに対する期待を肌で感じた。

## 5.1 docomo IoTスマートメンテナンスパッケージ

「docomo IoTスマートメンテナンスパッケージ<sup>TM\*9</sup>」は、産業設備に後付け可能なセンサから取得した振動データを用いて、①設備の稼働監視、②異常振動の検知、③振動に現れる故障予兆の検知、を提供するパッケージサービスである。

2018年12月にサービス提供を開始した本サービスは、クラウドへの振動データの蓄積・可視化に加え、ISO10816<sup>\*10</sup>で定められる回転設備<sup>\*11</sup>の診断基準に準拠した定量診断や、機械学習を用いた振動特徴量の推移予測などの技術によって構成されている。

本サービスにより、お客様の設備の監視、異常検知、故障予知保全を可能とし、壊れない設備、止まらない製造ラインの実現を支援する。

## 5.2 AIインフォテイメントサービス

「AIインフォテイメントサービス<sup>®</sup>」は単なる移動手段だったクルマを便利で楽しいモビリティ空間に変えるクラウドサービスである。

- ・世界最高水準の雑音下音声認識精度をもち、目

的地検索などのクルマで必要な操作を自然な対話で行う「自然対話技術」

- ・日常の行動を学習し、お客様の趣味趣向を理解した最適な行動をレコメンドする「行動先読み技術」
- ・人気施設の検索や話題のイベント情報、渋滞の予測などの必要な情報をタイムリーに配信する「高度情報検索・配信技術」
- ・お客様の声の高さ、音色、抑揚などから感情を分析する「感情認識技術」

これらのAI技術でお客様を理解し、安心安全で便利で快適なインフォテイメントサービスを提供している。

## 5.3 リモートモニタリングサービス

「リモートモニタリングサービス」は、富士通(株)が携帯電話の開発などで培ってきた音響解析技術を駆使し、咳やいびき、テレビの音などを独自のアルゴリズムで解析、プライバシーに配慮しながら生活者の見守りを行うサービスである(写真7)。主な特長としては、居室内に設置されたIoT機器が、音や人の動きなどをセンシングし、あらかじめ設定されたしきい値を超える大きな音や、ある一定の時間



写真7 リモートモニタリングサービス

\*9 docomo IoTスマートメンテナンスパッケージ<sup>TM</sup>：「docomo IoTスマートメンテナンスパッケージ」および「AIインフォテイメントサービス」は、(株)NTTドコモの商標または登録商標。

\*10 ISO10816：回転機械におけるコンディションの総合判断に広く用いられる規格。

\*11 回転設備：モータ、ポンプ、コンプレッサーなどの、ある軸を

中心に回転する機構をもつ設備。

以上人の動きがない状態を検出すると異常があったと判断しコールセンターに通知し、常駐の看護師による安否確認を実施すること、さらにはセンシングしたデータを活用しての健康相談の対応や、定期的な連絡による健康に関するアドバイスまで提供することが挙げられる。

## 6. デバイス・UI/UX

デバイス・UI/UXのエリアでは、モバイルサービスの進化を切り拓くデバイス技術や、新たなUI/UXを実現する技術など、23件の展示を行った（写真8）。新しいデバイスの利用形態であるデバイスクラスタ、デバイスやOSにかかわらず一貫したAR（Augmented Reality）\*12/MR（Mixed Reality）\*13体験を提供するための技術であるAR/MRプラットフォーム、資料や映像などを共有しながらコミュニケーションが可能なアバターコミュニケーション基盤を利用したアプリケーション（XRテレプレゼンスミーティング、アバターコミュニケーション「dSPS」）をお客様に

体感頂き、さまざまな反応をいただいた。

### 6.1 デバイスクラスタ

5G時代にふさわしい新しいデバイスの利用形態として、スマートフォンやタブレット・周辺機器などのシェアリング利用や公共デバイスとの情報連携を行う技術の展示を行った。この技術は、ユーザ認証やデバイスの管理・制御、課金などの機能を備えた基盤であり、例えば、普段はスマートフォンを利用しているが旅行中だけタブレット端末をレンタルして自分のアプリやデータを引き継いで利用する、駅の改札を出る際にどちらの方向に進めばよいか、改札機に自分のためのナビ情報を表示するといった使い方を可能にする。

今後は、この技術をオープンに利用可能とし、対応するデバイスやサービスを提供するパートナー提携・協創を拡大していきたいと考えている。

### 6.2 AR/MRプラットフォーム

5G時代の新体感サービスの1つとして期待されている。



写真8 デバイス・UI/UXエリア

\*12 AR：現実世界を写した映像に、電子的な情報を重ねて、ユーザに提示する技術。

\*13 MR：現実世界を写した映像に、電子的な情報を重ねて、ユーザに提示する技術。ARと異なり、自由視点での表示など情報を実際にそこにあるかのように提示する。

るAR/MRにおいて、デバイスやOSに依存しない一貫したAR/MR体験を提供するための技術の紹介を行った。複数のAndroid™\*14/iOS\*15/Windows®\*16端末間で、インタラクティブにAR/MRコンテンツを楽しめるデモ体験コーナーを設置し、合わせて、上記の複数のデバイスのAR/MR空間内における、位置/傾き/視野をリアルタイムで管理している画面も展示した。

来場者には、クリスマスツリーへの仮想的なオーナメントの飾り付け、3Dサンタクロースや雪だるまの塗り絵、AR大画面ディスプレイといった「クリスマスのリビングで楽しむAR/MR体験」を通し、技術の先進さにも共感をいただいた。

### 6.3 XRテレプレゼンスミーティング/ アバターコミュニケーション [dSPS]

新しいコミュニケーションの形として、VR空間内で各人がアバターになり、資料や映像などを共有しながらコミュニケーションできるアバターコミュニケーション基盤の展示を行った。展示では、本技術基盤を用い、①瞬時にアバター生成が可能な3Dフルボディスキャナを用いたテレプレゼンスミーティ

ングアプリケーション、②大画面で映像を視聴しながら会話や映像を楽しめるアプリケーションを紹介した。

来場者からは、VR空間内で行うコミュニケーションや映像視聴に可能性を感じるなど、今後の商用化を期待する声を多くいただいた。

ドコモは、お客様への新たな価値の提供、パートナーとの協創を生み出すサービスの実現に向けて、今後もデバイス・UI/UXの技術開発を進めていく。

## 7. トップガン

トップガンのエリアでは、2017年10月よりドコモが推進している、法人のお客様と、ドコモのR&D部門、法人部門が三位一体で連携してソリューションを創出する取組み（トップガン）を紹介した（写真9）。13の展示コーナーでは、トップガンの概要、進行中の11プロジェクトおよび、今後立上げ予定の1プロジェクトを紹介した。

### 7.1 Location Net

Location NetはBLE (Bluetooth® Low Energy)\*17



写真9 トップガンエリア

\*14 Android™：米国Google LLC. の商標または登録商標。

\*15 iOS：米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されている。

\*16 Windows®：米国Microsoft Corp.の米国およびその他の国における登録商標。

\*17 BLE：Bluetooth®の拡張機能の1つで、低消費電力機器向けにBluetooth 4.0規格の一部として策定された規格。Bluetoothは携帯端末を無線により接続する短距離無線通信規格で、米国Bluetooth SIB Inc. の登録商標。

を活用した人やモノの位置把握を可能にするソリューションである。展示コーナーでは、オフィスや工場・倉庫での従業員の位置や導線管理をイメージできるように、本イベント会場内の22カ所に検知機を設置し、来場者に配布したBLEの位置のヒートマップを大型液晶ディスプレイでリアルタイム表示した。ヒートマップは写真10の通り。



写真10 Location Net 会場内のリアルタイムヒートマップ

## 7.2 プログラミング教育用ロボットembot

embotは、段ボールと電子基板で組み立てるロボットを、タブレット上でプログラミングし操作可能とする小学生向けのプログラミングキットである。トップガンエリアの入口には来場者を出迎えるような形で巨大embotを展示し（写真11）、また、来場者向けに即売会も実施した。



写真11 巨大embot

## 7.3 おしゃべり案内板

おしゃべり案内板™\*18は画面へのタッチと音声に対応したインタラクティブなAI案内／受付サービスである。Saya\*19との対話を体験していただけるおしゃべり案内板を写真12の通り展示した。

本イベント全体が大盛況であった効果もあり、多くのお客様がトップガンエリアに来場し、ソリューション協創の取組みとしてのトップガンそのものや、各プロジェクトが解決できる課題や利用シーンに多くの関心が寄せられた。中にはお客様の具体的な課題について相談があり、オープンハウス後に具体的なソリューション提案や商談に発展するケースもあった。トップガンを通じてドコモがお客様に提供できる価値を理解いただくとともに、具体的なビジネスにつながる場としても非常に有意義な出展となった。



写真12 おしゃべり案内板

## 8. 5G Solution

5G Solutionエリアでは、ドコモ5Gオープンパー

\*18 おしゃべり案内板™：(株)NTTドコモの商標。

\*19 Saya：最先端のコンピューターグラフィックスを表現媒体とし、夫婦で活動するTELYUKAの手から誕生したオリジナルバーチャルヒューマン。2015年に発表し瞬く間に世界中で話題になる。ハンドメイドで生まれた彼女は、独特の有機感を持ち、人間とは違う新しい存在（GUIDE）としての役割を探索、

進化と成長を見せていくプロジェクトを進行中。

トナープログラムに参加のさまざまなパートナー企業との協業による5Gソリューションを展示するとともに、5Gオープンセミナー、ワークショップなど多彩なプログラムを実施した（写真13）。

2018年2月より開始したドコモ5Gオープンパートナープログラムのパートナー企業・団体数は増加し続け、今やその数は2,000社を超え（2019年4月時点）、業界・業種も多岐にわたっている（写真14）。

本イベントでは、本プログラムのこれまでの歩みと各地域での連携、過去3回実施されたワークショップの講演内容を振り返るパネルを展示した。来場者にドコモが5Gを活用した未来の実現へ着実に前進していることを実感していただいた。

展示エリアでは、AR/VR、AI、画像認識、8K映像、ドローン、IoT、デジタルサイネージ\*20など5Gの高速・低遅延・大容量を活かした31種類のソリュー



写真13 5Gオープンパートナープログラム紹介

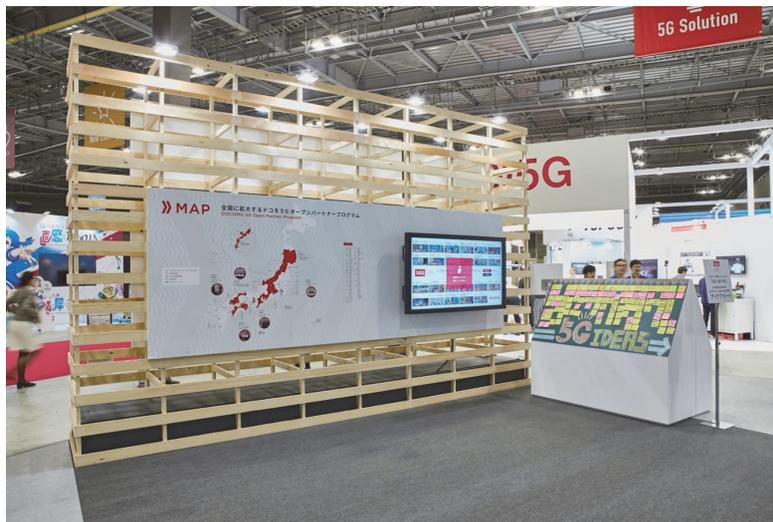


写真14 全国に拡大するオープンパートナープログラム

\*20 デジタルサイネージ：デジタル技術を用いた広告媒体のこと。ディスプレイやプロジェクタを用い、時間や場所などに応じて表示する広告内容を変化させることが可能であり、従来のポスターなどとは異なる広告メディアとして注目されている。

ションを展示した。

### 8.1 高専ワイヤレスIoT技術実証コンテスト

地域課題解決や、新たなサービス創出を図る本コンテストの、5G部門で採択された2つの技術を展示した。沖縄工業高等専門学校のダイビングゴーグルに「5G+AR」の技術を適用し、さまざまな情報をダイバーに提供する技術、また、豊田工業高等専門学校のスポーツにおける3次元の臨場感をVRで体感する技術の展示を行った。

### 8.2 AVATAR MUSEUM

ANAホールディングス株式会社、凸版印刷株式会社、東京大学大学院 暦本研究室が取り組みを進める「AVATAR MUSEUM」では、美術館、水族館、博物館などの観光地に設置された4K 360度カメラ搭載の「分身ロボット」を使い、ロボットが撮影するリアルタイムな全方位の映像を見ることで、遠隔地からでも高い臨場感で観光を体験できるソリューションを展示した（写真15）。



写真15 AVATAR MUSEUM

### 8.3 ドコモ5Gオープンラボ

ドコモでは5Gを体感できる場として「ドコモ5Gオープンラボ」を四谷、大阪、沖縄、グアムに設置し、多くのパートナー企業に利用いただいているが、本イベント内では、パートナー企業が実際に同ラボで行った実証実験を再現した（写真16）。

### 8.4 オープンパートナーイベント

本イベントでは、パートナー企業の講演、数十名での少人数参加型のアイデア創出ワークショップなど、実践的なものが多く行われた（写真17）。

1日め、2日め両日の午前では、「SDGs×5Gを使ったオープンイノベーション実践のコツ」と題し、数十名の参加者が各テーブルで数人のグループに分かれ、ワークシートを用いてSDGs（Sustainable



写真16 ドコモ5Gオープンラボ実証実験の再現

Development Goals)\*<sup>21</sup>の観点からビジネス課題とその解決策を考えるトレーニングを実践した。

また両日を通して「5G展示ツアー×ワークショップ」も実施した。数人のグループに分かれ、ドコモ社員が会場内の5Gの展示を説明しながら回る「5G展示ツアー」のあとに、グループごとに分かれて、参加型のアイデア協創ワークショップを行った。

パートナー企業による講演としては、1日めの午後に開催された「IoT×5Gスペシャルセッション」にて、エリーパワー株式会社、富士通株式会社、ユニアデックス株式会社の3社が、SDGsの観点から社会の課題解決を図るIoTソリューション開発の取り組みを紹介した。

2日めの午後には、「5G Co-Creation Session」と

\*21 SDGs：「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年に国連総会で採択された2016年から2030年までの国際目標である。持続可能な社会の実現をめざし、17の目標と169のターゲットを掲げている。



SDGs×5Gを使ったオープンイノベーション実践のコツ



アイデア協創ワークショップ



IoTソリューション開発の取組み



5G Co-Creation Session

### 写真17 オープンパートナーイベント

してドコモ5Gオープンイノベーションクラウド™\*22  
参加パートナー企業様によるセッションが行われた。  
株式会社ワコム、トレンドマイクロ株式会社、株式  
会社リコー、NTTテクノクロス株式会社が登壇し、  
VR、セキュリティ、IoT、AIなど、それぞれさま  
ざまな観点からのソリューションを紹介した。

## 9. あとがき

本稿では、2018年12月6、7日に開催された

「DOCOMO Open House 2018 ～ビジネスを、世  
界を、5Gで革新する。～」の開催模様の紹介、お  
よび展示についての解説を行った。

ドコモでは、2019年の5Gサービスの開始に向け、  
お客様に楽しさ、驚きのあるサービスを創り出し、  
体感、ライフスタイル、ワークスタイルなどを革新  
していく。また、日本の成長と豊かな社会の実現を  
めざして、社会課題の解決に取り組んでいく。

---

\*22 ドコモ5Gオープンイノベーションクラウド™：(株)NTTドコモ  
の商標。